

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自主」「誠実」「創造」の校訓を旨とし、これからの社会に貢献できる深い教養と豊かな人間性を備え、主体的に物事に挑戦する姿勢を持ち続ける知・徳・体のバランスの取れた人間力のある人材を育成する。			
【生徒に育みたい力】	・志と夢を持ち、将来の自分を想像する力	・社会や自身の課題に真摯に向き合い、主体性を持って考える力	
	・努力を継続し、挑戦し続ける意欲と行動力	・人権を尊重し、多様性を理解して繋がる力	

2 中期的目標

1	生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	[以下、学校教育自己診断を自己診断と表記]
	(1) 知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力と主体性・多様性・協働性を含んだ「確かな学力」の定着をめざす。	
	ア	・文部科学省から「DX ハイスクール」の指定を受けている強みを生かし、デジタル人材の育成を図り、文型・理型を問わず、AI 活用・プレゼンテーション力の育成を促進する。
		・津田高版の探究活動（総合的な探究の時間）を充実させ、上の項目とも連携しながら進めていく。
	※	生徒が DX または探究活動等による校外プレゼンテーション発表会に、令和 10 年度まで毎年度、複数組出場する。(R7：2 組)
	※	卒業生徒数における大学理系学部進学率を令和 10 年度に 12%以上にする。(R5：11.2%, R6：11.6%, R7：11.4%)
	イ	・主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実施しながら、わかる授業、学力を伸ばす授業に取り組む。高い学力伸長を求める生徒への対応を含め、生徒に即した適切な取組みを、できる範囲で最大限に実践していく。
		・1 人 1 台端末とプロジェクター等の ICT を活用して最適化された学びを実践する。
	※	自己診断（教職員）「主体的・対話的な授業や ICT 活用した授業実践」、令和 10 年度まで 95%以上を維持する。(R5：86%, R6：90%, R7：100%)
	※	自己診断（生徒）「授業のわかりやすさ」、令和 10 年度に肯定 88%以上にする。(R5：73%, R6：86%, R7：84%)
	ウ	グローバル社会を生き抜く力の育成のため、英語専門コースの生徒に留まらず、英語運用能力の活用の一環として、海外姉妹校や他校との国際交流、海外研修などを実施する。
	※	令和 10 年度まで、姉妹校訪問交流、海外の高校とのオンライン交流や受入れ交流、海外訪問研修の中から各年度 2 個以上を実施する。
	(2)	校内外での学習習慣の定着をめざす。
	ア	・放課後学習は、知識・技能の定着につながるように必要な取組みを行う。
		・授業における課題などは、自主学習につながる工夫を意識する。
	※	1・2 年生の自主学習の平均時間を、令和 10 年度には 0.8 時間にする。(R6：0.44H, R7：0.52H)
	イ	各種検定試験の受験を促進し、資格取得における学習への動機づけを図るとともに将来の進路に生かす。
	※	漢字・数学・英語・情報等の検定試験の申込者数を増加させ、令和 10 年度までに延べ 180 人にする。(R5：71 人, R6：79 人, R7：136 人)
	(3)	キャリア教育の充実と希望の進路実現のための取組みを推進する。
	ア	自分の希望する進路実現に取り組めるよう、進路種別の生徒・保護者向け説明会を実施するとともに、キャリア展望を育成する。
	※	自己診断（生徒）の進路指導に関する項目において、令和 10 年度まで肯定 90%以上を維持する。(R5：89%, R6：94%, R7：90%)
	※	自己診断（3 年生）「自分の希望した卒業後の進路選択に満足」、令和 10 年度まで 93%以上を維持する。(R6：95%, R7：94%)
2	力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成	
	(1)	生徒理解に基づく指導を促進し、安全・安心な学校生活を実現する。
	ア	カウンセリングマインドのある生徒指導により、生徒の納得感を高め、規律ある学習環境の確保を図る。
	※	自己診断（生徒）「学校のルールを守ろうとしている」、令和 10 年度まで 95%以上を維持する。(R5：94%, R6：96%, R7：95%)
	※	年間遅刻者数を令和 10 年度には 1000 人未満をめざす。(R5：895 人, R6：1061 人, R7：1427 人)
	イ	一人ひとりの状況や教育的ニーズに応じた指導・支援・配慮を行うため、支援コーディネーター、教育相談委員、人権推進委員などが協力して、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関と連携して、相談支援体制を充実する。
	※	自己診断（生徒）の教育相談・いじめ対応に関する項目において、令和 10 年度まで肯定 90%以上を維持する。(R5：86%, R6：90%, R7：88%)
	(2)	伝統ある学校行事（生徒会活動）や活発な部活動により主体性・協調性を育成し、自己肯定感を高める。
	ア	生徒主体で企画・運営する学校行事を実施する。
	イ	部活動運営の主体性を育むため CM（キャプテン・マネージャー）会議の充実を図る。
	※	自己診断（生徒）の「行事」「部活動」に関して、令和 10 年度には肯定 92%にする。(R5：76%, R6：88%, R7：89%)
	※	1 年生の部活動加入率を令和 10 年度まで 60%以上を維持する。(R5：50%, R6：53%, R7：63%)
	(3)	他者を尊重する心を育成する。
	ア	「あいさつが飛び交う津田高」の伝統を継承し、あいさつ運動を促進する。
	※	自己診断（生徒）「誰に対してもあいさつするようにしている」、令和 10 年度まで 94%以上を維持する。(R5：91%, R6：94%, R7：94%)
	イ	人権を尊重する教育を推進する。
3	広報活動	
	(1)	広報活動
	ア	学校説明会、中学校訪問等により生徒の活躍する姿を周知し、「津田高の魅力・特色」を発信する。
	イ	Web ページや公式ブログ、SNS 等を活用し、ショート動画も取り入れて、生徒の活躍する姿が鮮明に伝わるように情報発信する。
	※	ブログ「枚方津田ニュース」の更新を令和 10 年度まで 180 回以上を維持するとともに、公式 SNS・部活動 SNS を継続する。(R5：98 回, R6：166 回, R7：186 回)
4	働き方改革	
	(1)	大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき、働き方改革を推進する。
	ア	・ICT 活用を推進するとともに、業務の見直し・効率化、行事や会議の精選などを行い、働き方改革を推進する。
	※	教職員ストレスチェックの総合健康リスクに関して、令和 10 年度まで 100 未満（低値が望ましい）を維持する。(R5：123, R6：91, R7：90)
	※	年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員を早急に 0 人にする。(R7：5 人)
	※	年間 360 時間超の人数を前年度より減少させる。(R7：23 人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 生徒の 未来を拓く「確かな学力」の育成	(1) 知識・技能の習得、「確かな学力」の定着 ア DX ハイスクールによる取組み及び津田高版の探究活動の充実	(1) ア・DX ハイスクールにより整備した機材等により、AI 活用・プレゼンテーション力の育成やデジタルに関する力の育成を図る。 ・津田高版の探究活動（総合的な探究）を充実し、上の項目とも連携して進める。 ・中学生対象「デジタルものづくり教室」を実施する。	(1) ア・DX ハイスクール指定を継続[2 年め] ・DX または探究活動等による校外プレゼンテーション大会に2 組以上出場[2 組] ・中学生対象「デジタルものづくり教室」を2 回以上実施[2 回] ・卒業生徒数における大学理系学部進学率 12%[11.4%]	
	イ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業、わかる授業、学力を伸ばす授業に取り組む。高い学力伸長や生徒に即した適切な対応、ICT 活用	イ・1 人1 台端末とプロジェクター等の ICT の活用を含め、主体的・対話的で深い学びを実現する授業に取り組む。 ・わかる授業、学力を伸ばす授業に取り組む。7 限め授業、講習・補習の実施。 ・高い学力伸長を求める生徒への対応を含め、生徒に即した適切な取組みを、できる範囲で最大限に実践していく。 ・教職員間の授業見学や研修等で授業力の向上を図る。	イ・自己診断（教職員）「主体的・対話的な学びのある授業や ICT 活用した授業実践」の肯定 90%以上[100%] ・自己診断（生徒）「授業のわかりやすさ」の肯定 86% [84%] ・教員間授業見学週間を2 期間設定し、研鑽の機会とする。 [2 期間]	
	ウ 英語運用能力の活用、姉妹校等との国際交流や海外研修などの実施	ウ・海外姉妹校や他校との国際交流、海外研修などを実施する。	ウ・姉妹校訪問交流、海外の高校とのオンライン交流や受入れ交流、海外訪問研修の中から2 個以上実施[3 個]	
	(2) 学習習慣の定着 ア・放課後学習 ・自主学習につながる課題の工夫	(2) ア・放課後学習は、知識・技能の定着につながるように、必要な取組みを行う。 ・授業の課題などは、自主学習につながる工夫を意識する。	(2) ア・1 ・2 年生の自主学習の平均 0.65H [0.52H]	
	イ 検定試験の受験促進	イ・各種検定の受験を促進する。	イ・漢字・数学・英語・情報等の検定試験の申込者数延べ 150 人[136 人]	
	(3)キャリア教育の充実と希望の進路実現 ア 自分の希望する進路実現に向けての取組み	(3) ア・キャリア教育の充実及び進路種別の生徒または保護者向け説明会を実施して、希望する進路実現への取組みを推進する。 ・コース・類型に関連する体験型の行事を実施して進路選択・進路実現に役立てる。	(3) ア・自己診断（生徒）「進路指導」の肯定 92%[90%] ・生徒または保護者向け進路説明会を各学年5 回以上実施 [1 年8 回, 2 年10 回, 3 年15 回] ・コース・類型に関連する体験型の行事を2 回以上実施。[2 回] ・自己診断（3 年生徒）「自分の希望した卒業後の進路選択に満足」 93%以上[95%]	

府立枚方津田高等学校

2 力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成	（１）生徒理解に基づく指導と安全・安心な学校生活 ア カウンセリングマインドのある生徒指導、生徒の納得感、規律ある学習環境の確保 イ 一人ひとりの状況や教育的ニーズに応じた相談支援体制の充実 （２）学校行事や部活動による主体性・協調性の育成と自己肯定感 ア 生徒主体で企画・運営する学校行事 イ CM 会議の充実 （３）他者を尊重する心の育成 ア あいさつ運動の促進 イ 人権を尊重する教育	（１） ア・カウンセリングマインドのある生徒指導により、生徒の納得感を高め、規律ある学習環境の確保を図る。 イ・一人ひとりの状況や教育的ニーズに応じた指導・支援・配慮を行う。 ・支援コーディネーター、教育相談委員、人権推進委員などが協力して、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関と連携して、相談支援体制を充実する。 （２） ア・生徒が主体となるように学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自己肯定感を高める。 イ・CM 会議の充実を図り、部活動運営の主体性を育むとともに、１年生の部活動加入を奨励する。 ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。 （３） ア・「誰にでもあいさつできる津田高」のため、あいさつの重要性を説くとともに、生徒による日々のあいさつ運動を実施。 イ・人権を尊重する教育を実施する。	（１） ア・遅刻者数 1300 人以下[1427 人] ・自己診断（生徒）の「規範意識」の肯定 95%以上を維持[96%] イ・教育相談・支援・人権に関する教職員研修を 2 回以上実施[4 回] ・自己診断（生徒）での「教育相談・いじめ対応」の肯定 90%[88%] （２） ア・自己診断（生徒）の「行事」「部活動」に関する肯定 90%[89%] イ・１年生の入部率 60%以上を維持[63%] ・部活動交流に参加する中学生 120 人（広報集約分）[87 人] （３） ア・自己診断（生徒）「誰に対してもあいさつするようにしている」92%以上を維持[94%] ・生徒による朝のあいさつ運動を 100 回以上実施[105 回] イ・人権に関する行事を 5 回以上実施[6 回]	
3 広報活動	（１）広報活動 ア 学校説明会・中学校訪問等による魅力・特色の発信 イ Web ページや SNS を活用した情報発信	（１） ア・学校説明会、中学校訪問等により生徒の活躍を周知し「行きたい津田高」「伸ばす津田高」をアピールする。 ・中学生とその保護者に授業を公開する。 イ・Web ページや公式ブログ、SNS 等を活用し、ショート動画も取り入れて、情報発信する。	（１） ア・中学校訪問 100 回以上 [98 回] ・中学生とその保護者に授業公開 1 回[1 回] イ・ブログ「枚方津田ニュース」更新 200 回[187 回]	
4 働き方改革	（１）大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく働き方改革の推進 ア ICT 活用の推進、業務の見直し・効率化、行事や会議の精選	（１） ア・ICT 活用を推進するとともに、業務の見直し・効率化、行事や会議の精選などを行い、働き方改革を推進する。	（１） ア・年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教職員をゼロにする。[5 人] ・年間 360 時間超の教職員数を前年度より減少させる。[23 人] ・教職員ストレスチェックの総合健康リスク 95 以下を維持[90]	